

人権だより

第 15 号

令和 7 年 3 月 発行
五個荘地区人権の
まちづくり協議会

あったか 写真展



その時を楽しむ!!



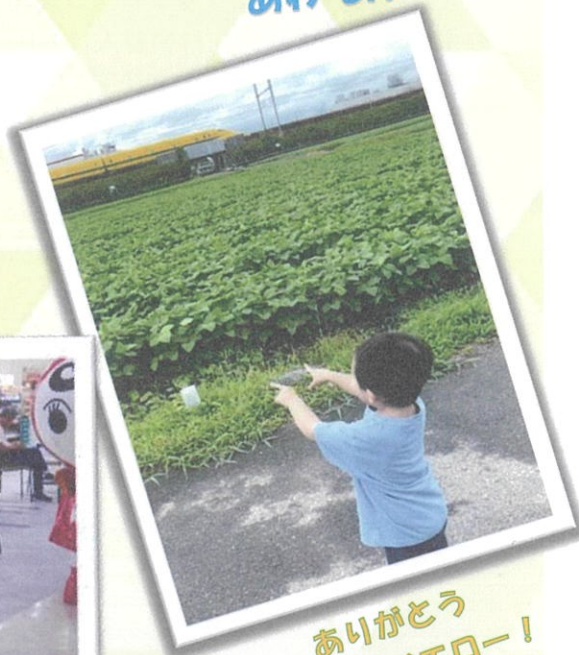
あわ あわ



お日様!つかまえた



人権まもるくん大~好き



ありがとう
ドクターイエロー!

昨年元日の大地震で甚大な被害を受けた能登半島に、9月には24時間雨量400ミリ超の観測史上最大の大雨が降りました。地震復興地域でも河川の氾濫、仮設住宅の浸水や各地で土砂崩れが起き、多くの集落が孤立し命と暮らしが再び脅かされる事態になりました。被災地での復旧作業に従事されている方々に敬意を表すとともに、皆さまがいつもの生活に戻れますように、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

ウトロ平和祈念館が伝えたいメッセージ

五個荘地区人権のまちづくり協議会会長 河村 栄一

10月15日、東近江市人権のまちづくり協議会から宇治市にあるウトロ平和祈念館への研修に参加しました。

◆ウトロ地区とは

1910年から日本の植民地政策で、多くの日本人が朝鮮に渡り、その日本人に押し出されるように土地も農地も失った朝鮮人は生活の糧を求め日本にきました。

多くの人は危険な炭坑やダム建設、戦地などに徴用されました。その後、第二次大戦中に京都飛行場が計画され、建設に従事すれば徴用が免除されると聞くと、多くの人が家族とともにウトロに来て、飯場（宿泊所）に暮らしました。

しかし、終戦で飛行場建設は中断、行き場を失った彼らは、その後も厳しい貧困と差別の中でウトロに暮らしました。

◆人々の生活ぶりは

豚の飼育を生業にし、日本人からは「臭い、汚い」と嫌われました。1951年サンフランシスコ講和条約により日本の主権が認められ、在日朝鮮人は外国人の扱いになり、健康保険、年金制度、公営住宅へ入ることすらできなくなりました。しかし、ウトロの人々はそんな状況下でも互いに助け合い、笑顔で生活していました。

◆戦後、ウトロの人が最初にしたことは

日本への同化政策で失われてきた祖国の言葉や文化を子どもたちに伝えたいという思いで、食べることも民族教育を優先して学校を創設しました。

◆突然のウトロの土地問題

飯場が建つ土地は元々軍事企業の所有。バブル期には不動産会社所有になり、立ち退きの訴訟を起こされ、所有権を持たないウトロの人は敗訴しました。しかし、人々は愛着のある土地の立ち退きに反対運動を起こし、くじけることなく続けました。

さらにウトロ周辺に住む日本人からも支援もされ、国際社会へも訴え、国連は明らかな差別だと勧告を出しましたが、日本政府からは協力が得られませんでした。この問題は韓国にも伝わり15万人の募金が集まり韓国政府を動かしました。その結果、韓国政府の予算建てでウトロの土地の一部を買い取ることができ、日本政府はそこに公営住宅を建て新しいウトロの町づくりが始まりました。あるウトロの高齢女性は「立ち退き問題のおかげで、私は日本人を恨まなくてすんだ」と言われたそうです。

◆ウトロ祈念館建設と新たな市民のつながり

日本と朝鮮半島や在日朝鮮人の歴史、さまざまな困難を乗り越え、ともに歩んできた日韓市民、それらの記憶と思いを伝え、未来へとつなぐ「ウトロ平和祈念館」が建設され、2022年4月にオープンしました。一年間で予想の10倍の2万3千人が来館されました。苦労の中にも「笑顔で生活」する住民の姿が写真から多くが伝わってきます。

ウトロは戦争中に作られ、日本社会から置き去りにされた朝鮮人の町でした。しかし、困難に直面しながら声を上げた人々とウトロに寄り添ってきた日本市民、在日コリアン、そして韓国市民が協力してウトロの居住権を守ったところからです。住民と市民のアンダーグラウンドのつながりこそが国家を動かす力となり、差別を乗り越えた真の証ではないでしょうか。



ウトロ平和祈念館



研修会の様子

表紙のことは

第17回あったか写真展を今年も世界人権デーに合せ令和6年11月22日(金)～12月6日(金)まで五個荘コミュニティセンターで開催しました。

表紙に、橋本結衣子さん、柊志さん(上中央)、中川清志さん(右上)、塚本さん(左下)、奥井和義さん(下中央)、佐生輝美さん(右下)の作品を掲載しました。

ご応募いただきました皆様、ありがとうございました。

令和6年度役員

会 長	河村 栄一
副 会 長	大橋 保治 (啓発部長)
〃	市田 衛 (広報部長)
〃	溝江 透 (研修部長)
会 計	篠原 玲子
監 事	平田 憲治
〃	森口 俊明
事務局長	細居 悦子

各町推進員・推進委員の皆様、一年間ありがとうございました。

令和6年度人権のまちづくり町別懇談会



今年度の町別懇談会は、全27自治会で開催され、うち3自治会の報告をします。

『障がい者』や

『ヤングケアラー』について学ぶ

山本町人権のまちづくり推進員

中島 了 太田 まり子

11月16日、五個荘小学校 校長 矢田 修先生をお招きし人権学習会を開催しました。

最初に、『あなたの笑顔がくれたもの～周りからは見えにくい障害・生きづらさ～』のビデオを視聴後、矢田先生のヤングケアラーについてお話を聞きました。その後、みんなで人権について話し合いを

行いました。

「人権」は日常の何気ない人との関係性の中にあります。

しかし、外見で決めつけたり、「障がい者」や「ヤングケアラー」などと分けて人を判断せず、一人ひとりが考えや感じ方も違う人間であることを理解して向き合うことの大切さを学ぶことができました。

人が人らしく生きていくために、相手の立場などを思いやる優しい人権の感覚が不可欠だと思います。



高齢社会における

高齢者の人権（認知症）

金堂町人権のまちづくり推進員

磯部和男 山村 明 立岩 忍

11月9日に、参加者38人が参加のもと、近江のてんびんの吉川さんを講師に迎え『高齢社会における高齢者の人権（認知症）』をテーマに町別懇談会を開催しました。もう始まっている高齢化社会の日本の現状や、東近江市の将来の動向や現在、要介護になった原因は、認知症がトップになっていること

の説明を受けました。

我々、高齢者は（参加者はほとんど高齢）認知症の確認として物忘れが第一に関心があることですが自覚があれば認知症ではないようです。

認知症は特別な病気ではないので、個人だけの問題でもなく、家族、地域、社会全体で支え合うことが大事になるということがわかりました。また一人ひとりが認知症についての理解を深め、近くの人が支援をしあうことでより良い地域になると思います。



歌詞に見るその時代の背景と人権

宮荘町人権のまちづくり推進員

奥野 雅章 吉川 孝子

11月24日に、参加者27人が参加のもと開催した人権学習会は、音楽ユニット ケールさんのとても綺麗な二胡の演奏・歌を披露して頂き心のサプリメント、心が元気になる大きなパワーを頂きました。歌の背景にある意味を伝えてくださりながら、人が幸せに暮らしていく為の人権について学びました。

人は自分と違った感覚のものを差別して淘汰する傾向がある為、争いが生まれ、それが大きくなり、戦いが世界で起こっています。

人と違う所を見つけても、差別せずに認め合い、どんな良い所があるか見て、取り入れ尊敬・反省・感謝をしていく事が大事だと、歌を通じて様々な人権について学ばせて頂く良い機会となりました。



難病の人たちが笑顔で 暮らせるまちづくり

NPO 法人喜里 藤井美智代さん 井上克己さん

ちょっとした思いやりが 温かいまちづくりの一步



12月6日、NPO法人喜里の藤井美智代さんと井上克己さんをお迎えして研修を行いました。

難病応援センターは、難病の人たちが「安心できる」「心が元気になれる」場であると同時に地域の誰もが気楽につながり合えて、支え合いが生まれる、そんな優しいコミュニティができればとの願いの元、令和5年3月に五個荘コミュニティセンターのとなりに誕生しました。

センターは難病の方が働ける場だけでなく、病気や仕事、暮らしの相談などもされています。また、カフェルームも併設され、難病の方だけでなく家族や地域の方々の居場

所となっています。さらに、交流を深めるため地域の皆さんと協力して、マルシェやチャリティライブ、ドッグカフェ等も開催されています。

そんな活動の様子を写真や動画で紹介していただきました。お話の間には、歌や演奏もあり、あっという間に時間が過ぎました。

「声をかけていただければ、どこにでも行かせていただきます」と言っていたので、各地区でも歌やお話をしていただく機会をつくってみられたらいかがでしょうか。

(研修部長 溝江 透)



NPO 法人喜里 理念

ひとりぼっちの難病者をつくらない
ひとつひとつの思いやねがいを紡ぎ
難病者が安心して心豊かに暮らせる
ようにする

伝えきれない程の沢山のありがとう。
心を込めて・・・

ここむすマルシェに参加して



今年度特別支援学級では様々な野菜を学級菜園で育てており、サツマイモの栽培も行いました。暑い中、畑を耕すことから始め、日ごろからこまめに草抜きや水やりなどの手入れを続けました。収穫することのできたサツマイモを材料に、支援学級の生徒とボランティアに参加してくれた生徒と一緒にスイートポテトを作り、五個荘中学校の隣にある難病応援センターのここむすマルシェで販売を行いました。朝早くからたくさんの量を調理し、会場を設営するのは大変でしたが、用意していたスイートポテトがすぐに完売し、地域の方々やマルシェに来ていた友だ

ちから「すごくおいしかったよ」「ありがとう」と言ってもらえたことができました。

マルシェに参加していた生徒は、「おいしかったと言ってもらえてすごく嬉しかった。頑張って作ってよかった」と言っていました。活動を通して、地域の方と心が通った温かい時間を過ごすことができました。



難病応援センター
cocomusu マルシェ
10月12日

五個荘中学校 加藤教頭

ぬくもりメッセージ 2024

東近江市内の小・中学生、一般から応募のあった
メッセージ571・標語 7,210・ポスター1,100 作品のうち、
五個荘地区から優秀賞に選ばれた作品を紹介します。(敬称略)

ポスター

優秀賞

「壊れるのは
物だけじゃない」

かい もえか
甲斐 萌愛

五個荘中学校2年



標語

優秀賞

「まもうろよ みらいのわたし 大切に」

なす ゆりか
奈須 優里華

五個荘小学校2年

優秀賞

「その言動 心を切りさく 刃かも」

ふじの ゆうき
藤野 友基

五個荘中学校1年

優秀賞

「あいさつは 人とふれあう 合言葉」

しみず まさゆき
清水 正行

一般

メッセージ

五個荘地区は該当ありませんでした



1月20日 東近江市女性のつどい

今回のテーマは「子どもの 子どもによる 子どものための時間～森・里山の遊びや生活より～」と題してびわ湖の森の幼稚園代表理事の西澤彩木さんの講演がありました。子どもの幸福度は先進国38か国中で総合20位。身体的健康は第1位にもかかわらず、精神的幸福度は37位、また15歳の子どもの社会的スキルは27位（※2018年資料）とたいへん驚きました。

国の令和4年5月に示された「未来ビジョン」では、現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視で、将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められるということです。

これらから、幼児教育はとくに「主体性を大切にす

るということ」（そのために、子どもが自分でできること、人との関わりのなかで育つ、子ども同士ですすめていくこと）と、「自然や暮らしのなかで育つということ」で私たちの身近のある森・里山を通しての今後の活動が特に重要になってくることを力説されました。幸い私たちの郷土は、未来の優秀な人材を輩出するために、もってこいの地域であり、もっとこれらを利用していこうではありませんか。

（広報部長 市田 衛）



誰かとならば人生ははるかにちがう

2月1日 福祉・人権のつどい

「子どもと子育て家庭のいのちと暮らしを見守る」と題して 共同助産所 お産子の家 助産師 齊藤 智孝さんに講演を頂きました。

子どもの誕生に携わる助産師という仕事、生命の奇跡と不思議、大切に生きるということは命を守り育むことと改めて教えて頂きました。何のために生まれてきたのだろうか、人が生まれるということは人の物語の始まり、山あり谷あり、人に支えられ、人を助け、何のために生きてきているのだろうか、常に自問自答しながら人と共に生きる。生きる価値を決めるのは誰でしょう、何でしょう、いや、生きるのは誰でしょう、あなたです、私です。見えない命のバトンを託された将来の多くの子どもたちです。



講演に参加された皆さんは自身の今まで歩んできた人生、親や兄弟、姉妹、子どもや孫の誕生や成長など節目のさまざまな出来事を、命のバトンを伝えるかのように思い出されたことと思います。

昨年亡くなられた漫画家「鳥山明さん」（Dr. スランプあられちゃん、ドラゴンボール）の死去に際し、尾田栄一郎氏（ワンピース）は、『アニメが良く思われなかった時代から、何かを学ばせる時代の先駆けではなかったか』と評していますが、アニメに限らず、ドラマ、映画、小説、歌謡曲、エッセイなど、それぞれ同じように学びがあります、要はそれに気づき、感動できるかどうかでしょう。そして、そのことを人に伝えられるかが大切ではないでしょうか？何かを見て知って、そこから何を学んだか？命と生きる大切さを学び、改めて感じた今日、これからの出会いを大切に、人生を精一杯生きたいと思います。そんなことを思いたくなるお話でした。

（広報部 西 義一）

編集後記

コロナ禍が明け、自治会の行事の廃止、休止、縮小などで町内の人と出会う機会も少なくなったのではないのでしょうか。本年度は町別懇談会が全町で再開され、講師のお話を聞くという形から人権DVDを鑑賞の後、グループに分かれての討論や意見交換をされている形態に変化しつつあるように思います。

さて、発言が自分の番に回ってきたとき、なかなか腹にしまっておくことは発言しにくいものです。「腹を割って話す」という言葉があります…今でいうと「ぶっちゃけ」？という意味なんでしょう。

なぜ、「腹を割ってまで」？ 昔は頭でなく、腹で物事を考えていたそうです。腹の中は見えないから、だから割って見せたといわれます。

討論も盛り上がってくると「こんなこと言って」と腹を割った内容になる場合があるでしょう。しまったと後から後悔することも…。懇談会という研修の場、その場で収めるというプライバシーの保護にも努めたいものです。ただし、参考になるいい意見などはどんどん実行してほしいものです。

会長 河村 栄一